

プロ・ハンヒキヴィはフィンランドの原子力発電所建設プロジェクトに反対します 日本の政治家、企業、メディアの皆様へ

プロ・ハンヒキヴィ(Pro Hanhikivi)は、2007 年 12 月、フィンランド北部ピュハヨキ(Pyhäjoki)において、フィンランドの原子力企業フェンノボイマ社(Fennovoima)の新規原発建設により住環境が脅かされると危惧した住民たちにより結成されました。活動開始の根拠は自分たちが住む近くに原発を建て欲しくないという単純な気持ちだけでなく、原子力というエネルギーの非持続可能性に対する疑問でした。さらに、ピュハヨキの位置するハンヒキヴィ(Hanhikivi)半島は非常に重要な自然的価値の宝庫であり、国際的にも珍しい、北極の渡り鳥の休憩地や保護対象の生態系や生物種も多く見られる地域であることも、プロジェクト反対の理由となっています。

(http://www.hanhikivi.net/pdf/hanhikivi_brochure_en.pdf)

プロ・ハンヒキヴィは地域、国、国際レベルで活動を展開しています。過去 5 年間、プロ・ハンヒキヴィはフェンノボイマ社に対して、プロジェクトの環境影響評価および原則決定(Decision in Principle, DIP)に関する何百ページにも及ぶ意見、反応、不服申し立ての書類をとりまとめてきました。これに加え、プロ・ハンヒキヴィは土地利用計画策定の各段階に参加して、プロジェクトに対する苦情を申し立て、フィンランドの各レベルの裁判所に対して正式な訴訟を起こし、EU の請願委員会に対する請願を行いました。

会長のヘレナ・マイジャラ(Helena Majjala)と副会長のハンナ・ハルメンペー(Hanna Halmeenpää)は団体の代表として、フィンランドの国会を幾度も訪れ、さらに EU の請願委員会へも 2 度訪問しています。ハンナ・ハルメンペーは、フェンノボイマ社の大株主であるエーオン社(E.ON AG)の年次総会(開催地:ドイツ、エッセン)に 2009、2011、2012 年と参加しています。現在プロ・ハンヒキヴィのメンバーは 350 人を超え、フェンノボイマ社のプロジェクトに対する精力的な反原発活動を継続しています。

絶滅危惧種の生息するハンヒキヴィ半島ピュハヨキ(<http://www.hanhikivi.net/niemi/>)。この地における新たな原子炉建設の計画は、欧州において最も傲慢なプロジェクトの一つです。フェンノボイマ社は未だ建設に必要な土地および水域の全ては保有しておらず、原発建設用地の土地利用計画は法的に有効ではありません。さらに建設許可付与の条件である核廃棄物処理に関する解決策も提示できていません。にもかかわらず、同社は計画をフルスピードで進めようとしており、雇用経済省を通して正式に残りの建設用地および水域を収用する手続きを始めました。これは、フェンノボイマ社がピュハヨキの住民から 100 ヘクタール以上の土地および水域を強制収用することを意味しています。

ただしここ数ヶ月間で、フェンノボイマ社はいくつかの困難に直面しています。フィンランドの株主数社がプロジェクトから手を引くとともに、同社理事会の理事長および社長は解任されました。フィンランドでは、プロジェクトが崩壊する可能性について様々な憶測が飛び交っています。最大の衝撃は、大株主であるエーオン社が 2013 年 6 月をもってフェンノボイマ社の株を売却し、同社からの撤退を決定したことです。フィンランドの最新情報では、フェンノボイマ社への原子炉供給業者の候補となっている東芝またはアレバ社が、エーオン社の後任として新たな株主となると推測されています。

フィンランドにおけるフェンノボイマ社のプロジェクトに関連し、私たちは、地域だけでなく国そして国際レベルで、原子力および新規原子炉建設問題の開かれた議論をおこすことを目標に活動しています。



親愛なる日本の企業ならびに政治家の皆さま、フィンランドにおけるフェンノボイマ原発建設プロジェクトの実現につながるいかなるサポートを許さないよう、ご協力をお願いいたします。

敬具

プロ・ハンヒキヴィ (Pro Hanhikivi)

ヘレナ・マイジャラ(Helena Majjala)
会長

ハンナ・ハルメンペー(Hanna Halmeenpää)
副会長



ヘレナ・マイジャラ:会長。エンジニア(土木技師)。新規原子炉建設予定地より5キロのピュハヨキのパルハラティ(Parhalahti)村の住民。

ハンナ・ハルメンペー:副会長。中学校の生物および地理学教員。新規原子炉建設予定地より約50キロのピュハヨキの隣接自治体であるカラホキ(Kalajoki)の住民。夫ならびに3人の子どもと暮らす。